

自己点検・自己評価の公表について

学校法人 名古屋大原学園

1. 当学園における自己点検・自己評価の取り組みについて

専修学校における自己点検・自己評価は、平成19年に学校教育法及び同施行規則の改正により義務付けられることとなりましたが、本学園におきましては従前より独自の 방법으로評価点検とその改善に努めてまいりました。

平成29年度においても、より同法に則った項目で点検・評価を実施しましたので、ここにその結果を公表いたします。本学園における教育の現状を正しくご理解いただき、より一層のご支援を頂ければ、幸甚に存じます。

なお、自己点検・自己評価の詳細につきましては、本学園各地区各学校HP上で学校関係者評価報告書とともに自己点検・自己評価の総括表を公表するとともに、各学校内で詳細報告書を公開しています。閲覧ご希望の方は、日時をご予約のうえご来校ください。

2. 平成29年度自己点検・自己評価の結果について

本学園の教育理念を念頭に置き、分野ごとに行う専門教育を通じ、教育基本法に謳う“人格の完成”を目指し、“社会の形成者”として必要な資質を備えた身心ともに健全な学生を育成するため、すべての業務に誠意と情熱をもって対応します。

(1) 教育理念・目標

本学園では、学園の基本運営方針・教育目標・学園スローガンを定め、事業計画書等で明確に公表するとともに、職員総会をはじめ定期的に確認・点検できる場を設けています。

専門課程の目標：早期大人化教育、資格試験・公務員試験など専門教育の充実

(2) 教育活動

本学園では、変化の激しい社会ニーズに応えるため、毎年個別委員会を設置し、各事業年度の重点項目を定め、時代に即応した実践的な教育を展開できること、将来へ向けての準備を怠らないことに重点を置き、各テーマに取り組んでいます。

各校各学科とも、それぞれの分野からの人材ニーズを適切に把握し、目標人材像を定め、それに応じたカリキュラム等教育計画全体を定期的に見直しています。

教育現場においては、資格教育に留まらず、「自己管理能力」「協調行動力」など職業現場で必要とされる能力の開発など、産学連携の職業教育にも注力しています。

(3) 学生支援と教育成果

本学園は、全国展開する大原グループの一員として、授業カリキュラムから就職指導に至るまで、総合グループ校の特徴を生かすことにより、良質の教材の提供・高度な職員のスキル・全国を網羅する求人網等、学生の満足度の高い学校を実現しています。

各校ともクラス担任制で運用することにより、学生本人だけでなく父兄・出身校とも連携をしっかりと行い、よりきめ細やかな学生管理を行うことによって、国家試験の合格率や就職率など高い教育実績とともに低退学率を実現しています。

学園主導で「大原カーボンオフセットプログラム」に取り組み、各校とも学生が主導となって地域活動やボランティア活動に参加できる環境を整えています。

(4) 法令等の遵守

本学園は、会計・法律の資格指導校である特色を生かし、新制度や規定の制定に積極的に取り組んでいます。

個人情報に関しては、個人情報保護管理者を置き、法令の遵守に努めるだけでなく、詳細な学内規定『個人情報取扱規則』を策定し、全ての個人情報の取り扱いには細心の注意を払っています。

本学園は、自己点検・自己評価の実施と公表を、今後も積極的に行っていきます。

学校法人名古屋大原学園

【名古屋】

大原簿記情報医療専門学校
大原法律公務員専門学校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校

【岐阜】

大原簿記医療観光専門学校 岐阜校
大原法律公務員専門学校 岐阜校

【津】

大原簿記医療観光専門学校 津校
大原法律公務員専門学校 津校

【浜松】

大原簿記情報医療専門学校 浜松校
大原法律公務員専門学校 浜松校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 浜松校

【静岡】

大原簿記情報医療専門学校 静岡校
大原法律公務員専門学校 静岡校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 静岡校

【沼津】

大原公務員医療観光専門学校 沼津校
大原介護福祉専門学校 沼津校

作成者: 紅林 克弘

作成日: 平成30年4月30日

サンプル数(評価数値の分布合計): 5

(1). 教育理念・目標

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0
②学校における職業教育の特色は明確になっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0
③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0
④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0
⑤各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	0	0	0

①課題

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価された。

平成29年度は「④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」の改善のため、入学直後に「新入生保護者ガイダンス」を実施し、多くの保護者が参加した。今後は参加者のさらなる増加に努める。

②今後の改善方策

今後は「新入生保護者ガイダンス」に全ての保護者が参加するよう、学校説明会など入学前の早い時期から告知を行う。

③特記事項

社会のグローバル化や業界ニーズを踏まえ、教育目標である「早期大人化教育」と「学科の専門教育」の実現を各学科・コースにおいてどのように進めるか検討した結果、その育成すべき人物像を以下に掲げるものとした。

【学科・コース毎の目指す業界人物像】

国際ビジネス科観光サービスコース: 国際センスを備えた「一流のビジネスパーソン」

ホテル・ブライダル科ホテルコース: 世界に誇れるおもてなしを身に付けた「一流のホテルスタッフ」

ホテル・ブライダル科ブライダルコース: 人生最高の一日を演出できる「一流のブライダルスタッフ」

職業教育の特色として、資格取得後それに関連した実習を行い、知識の定着と実技能力の習得が出来るカリキュラムを構築している。

具体的には、ホテル・ブライダル科において、サービス介助士資格取得後に静岡市内で行われるイベントの際にボランティア活動を行い、国際ビジネス科において、旅程管理主任者受講直後に添乗研修を行っている。さらに平成30年度ホテル・ブライダル科においては3級レストランサービス技能検定実技試験後、「ウェイトレスin横浜」に参加し、料飲サービス技能の向上に努めることを予定している。

業界ニーズに対応するため、訪日外国人観光客の対応を意識し、ホテル・ブライダル科では英語によるレストランでの接客対応に取組み、国際ビジネス科では留学生を訪日観光客に見立てた静岡市内観光案内の実習をカリキュラムに盛り込んでいる。さらに平成30年度国際ビジネス科においてインバウンドビジネス理解のため、地域観光資源を巡るボランティアガイド体験を行うことを予定している。

2学科ともに職業実践専門課程の認定を受けており、教育課程編成委員会の外部委員との連携強化により、さらに教育内容の質の向上を目指す。

(2). 学校運営

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①目的等に沿った運営方針が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0
②運営方針に沿った事業計画が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0
③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	3	0	0
④人事、給与に関する規程等は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	3	0	0
⑤教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	2	1	0
⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0
⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0
⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	3	0	0

①課題

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価されたが、評価項目のうち「⑤教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか」の項目で「やや不適切」との評価意見があった。

平成28年度は全ての項目で「適切～ほぼ適切」と評価されたが、平成29年度は⑤の項目において現金出納書類の内容が実情に合わせて変更されていないとの意見があった。

②今後の改善方策

平成30年度は⑤教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているかについて、現金出納書類の項目や管理者の役職など、使用に大きな問題が無い場合であっても実情に則した内容に修正していくものとする。

③特記事項

毎年一回、事業計画を策定し、月別の年間業務計画を作成し、翌月には前月の計画が遂行されているかを確認し、全体朝礼で遂行状況を発表することとしている。また、各校朝礼においては直近の資格試験合格目標や就職活動目標を確認している。さらに事業計画書には平成30年度の重点目標として、教職員の業務範囲の拡大や企画力の向上を掲げている。

学園・学校組織及び職位は事業計画書の組織図に明記されている。また、事業計画の各項目においてその実行責任者も明確にされている。学園諸規則においては意思決定機能を十分果たせる具体性を保持している。(組織を有効に機能させるため、年一回見直しを行っている。)

就業規則・給与規程・教職員採用規程等必要なものはすべて学園諸規則集に網羅されており、ネットワーク上にて、教職員は必要に応じていつでも自由に閲覧できる状態である。

学校ホームページ上に、学校の特色・学科の教育目標・合格実績・卒業後の進・教育活動や教育環境等、教育活動全般を中心に、学生への生活支援の状況、納付金・就学支援の状況等、広範にわたって過不足なく公開されている。

無線LANの環境整備とタブレット端末の活用、遠隔地双方向授業などが既に実施されており、一層充実度を高めている。これらにより業務の効率化が図られると共に、タブレット端末による教育用ソーシャルネットワーキングサービスの使用により教育成果も期待する。

(3). 教育活動

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、	ほぼ適切…3、	やや不適切…2、	不適切…1
①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0
②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0
③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0
④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0
⑤関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0
⑥関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0
⑦授業評価の実施・評価体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	3	0	0
⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0
⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0
⑩資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	0	0	0
⑪人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0
⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	1	4	0	0
⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研究や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	3	0	0
⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	1	3	1	0

①課題

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価されたが、評価項目のうち「⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか」の項目で「やや不適切」との評価意見があった。

平成28年度に「⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか」について「やや不適切」との評価があったため、平成29年度は積極的な参加を促し、業界に関係する講演やセミナーなど幅広い視点で研修参加を行い改善を図ったが、平成29年度も専攻分野の教員研修は不十分であるとの意見があり、引き続き課題である。

同時に情報リテラシーについて、オペレーションシステムやビジネスソフト、ビジネスアプリケーションの学習を本人任せにせず、教職員研修の機会を設ける必要がある。

②今後の改善方策

「⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか」について、平成30年度は専攻分野における教員研修に関し、各教員が研修を受ける月を指定し、年度初頭より指定月に実施される研修の情報収集を行うなど計画的に進めることにより、当該月の担当業務を調整し、確実な研修参加を目指す。

また、観光、宿泊、ブライダル、インバウンドビジネスに関する講演や視察の機会があれば、県外であっても教員に参加を指示し、組織的・計画的なレベルアップを図る。

なお、平成29年度と同様、教職員に対する内部研修は入社年数により段階的に実施する仕組みと、役職別に実施する仕組みを併用し、教職員として総合力アップを図る。情報リテラシーのタブレット端末のビジネスアプリケーション活用について、職員会議で効果的活用方法を相互に紹介し、レベルアップを図る。

③特記事項

教育目標である「早期大人化教育」実現のため、具体的な目標として、在学時に『学生を入社2年目レベルの社会人に養成すること』を掲げている。特に在学中の内定後教育では、「ビジネス実習」科目として入社後に必要な電話対応や来客時の接遇、PC技能の習得を授業として取り入れ、その効果測定を行い、定着度を確認している。

教育理念に基づく育成人材像について、毎年2回教育課程編成委員会を開催し、外部委員より業界ニーズや関連業界の将来的な要望を把握している。カリキュラムや時間割作成の際の授業科目・授業時間に反映させている。

ホテル・ブライダル科におけるインターンシップでは、毎年受入先企業より多面的な評価と学生個々に関する詳細なアドバイスをいただいている。そのアドバイスはインターンシップ終了後に学生自身は振り返りに活用し、教員は学生指導の参考としている。学生にとって実りあるものとするため常に改善方法を模索し、取り組んでいる。

学科ごとの進級基準・卒業基準は、学生便覧に明確に定められており、この基準に従って進級判定会・卒業判定会が開催され、進級と卒業の認定を行っている。また、学生便覧は入学直後に全学生にデータ配布しており、学生はタブレット端末に保存し持ち歩き、必要に応じて確認する。

(4). 学修成果

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①就職率の向上が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	0	0	0
②資格取得率の向上が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	3	0	0
③退学率の低減が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	2	1	0
④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	2	1	0
⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	3	0	0

①課題

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価されたが、評価項目のうち「③退学率の低減が図られているか」、「④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」で「やや不適切」との評価意見があった。

平成28年度は年4回の学生と担当教員との個人面談により退学率の低減を図ることができた。さらに学科の関連業界が集まる合同企業ガイダンスに教員を派遣し、卒業生の社会的評価の把握に努めた。平成29年度も同様の取り組みを行ったが「③退学率の低減が図られているか」について学校が関与できない事情による退学者がいたため、更なる取り組みが必要との意見があった。

また「④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」について、卒業生の社会的な活躍および評価の把握のため、全ての就職先にアンケートを送るか、または電話問い合わせを行う必要があるとの意見があった。

②今後の改善方策

「③退学率の低減が図られているか」については、学生の極めて個人的な理由による退学の場合、定期的な面談により改善できないこともあるため、平成30年度は退学率の低減のため、必要に応じて学校と保護者との連絡機会を増やすことを検討する。

「④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」の卒業生の社会的評価の把握については、従来、就職先アンケートを学科に関連する業界の企業や一定規模以上の企業に限定していたが、規模に関わらず、また学科に関連しない業界の企業に対してもアンケートを送付し評価の把握に努める。

また、卒業生に対し、企業PRのための来校や講演会などの機会を作る。これにより卒業生の来校機会の増加を図り、企業側にもメリットのある形で情報収集の機会を設ける。

③特記事項

当校では、日ごろから「資格の大原」「就職の大原」のスローガンのもと、学生に対して国家資格・検定資格の取得を勧め、卒業年度2月までに就職希望者全員の就職内定を目指している。

平成29年度は、ホテル・ブライダル科1年生が受験したホテルビジネス実務検定ベーシックレベル2級の合格率が高く、主催団体より表彰を受けた。平成30年度も受験者全員合格を目指し、指導力の研鑽に努めたい。なお、就職に関しては2学科ともに就職希望者全員が1月までに内定した。

また、近年は新入社員の入社後1年未満の早期離職が問題となっている。この対策として、電話対応、来客対応をはじめとするビジネスマナー教育を内定後教育として実践している。これにより、学生は入社直後の職場適応力を高めることが可能となり、早期離職率の低下に繋がっている。

内定後教育は採用企業からも好評で、「大原の卒業生は即戦力になる」との評価を得ている。

在校生の評価に関しては、高校の先生方やボランティア先から高い評価を得ている。平成27年度から内定後教育の一環として実施している母校訪問(出身高校訪問)は平成28年、平成29年と毎年ほぼ全員の学生が行った。学生自らが訪問し、自身の資格取得実績や就職内定に関する報告を行ったことで、多くの出身高校の先生方より賞賛を受けたとのことである。

(5). 学生支援

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①進路・就職に関する支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	0	0	0
②学生相談に関する体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	0	0	0
③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0
④学生の健康管理を担う組織体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	1	2	2	0
⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	3	0	0
⑥学生の生活環境への支援は行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	3	0	0
⑦保護者と適切に連携しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0
⑧卒業生への支援体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	3	0	0
⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	3	0	0
⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0

①課題

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価されたが、評価項目のうち「④学生の健康管理を担う組織体制はあるか」の項目で「やや不適切」との評価意見があった。

平成28年度は教職員のメンタルヘルスマネジメント検定取得により、学生のメンタル不調への気付きには着手できた。平成29年度は「④学生の健康管理を担う組織体制はあるか」に関し、保健室使用時、容体急変に対応するインターホンや緊急ブザーなどの設備が無いこと、さらにインフルエンザ流行時の対策として加湿器設置による予防対策が不足しているとの意見があった。

②今後の改善方策

「④学生の健康管理を担う組織体制はあるか」についての意見のうち、緊急時連絡用ブザーについては同地区の2校に提案し、改善を図りたい。加湿器設置による予防対策については、当面の間、努力目標とする。

③特記事項

進路・就職に関する支援体制については、就職サポート室を設置し、就職先企業の開拓をはじめ、東京校との連携、学生・担任への求人情報の提供、学生・保護者向け就職ガイダンスの実施、学生向け面接指導等、就職に関する情報提供と相談業務を中心に活動している。

各種の学費支援制度を設けている。経済的な支援体制については、「資格経歴特別奨学生制度」「兄弟姉妹等特別奨学生制度」「海外研修旅行支援制度」のほか、公的な支援制度として「日本学生支援機構奨学金制度」を入学案内書で入学希望者に紹介しており、入学生の利用頻度が高い。

名古屋大原学園全体で年一回6地区合同スポーツフェスティバルの開催や地区ごとのクラブ・サークル活動の支援を行い、ホテル・ブライダル科では障害者エスコートサービスを主体としたボランティアとして「大道芸ワールドカップin静岡」参加に対し、積極的に支援している。

保護者に対しては入学直後の4月上旬に「新入生保護者ガイダンス」を実施し、学校の教育理念や教育目標、学校生活全般について学生に対するものと同等の説明を行い、就職活動開始直前の11月には「保護者のための就職ガイダンス」を実施し、就職活動に対する家庭での支援ポイントを伝えている。

欠席日数が増えるなど学生に何らかのマイナスな兆候が見られた場合、担当教員から保護者へ電話連絡し、状況を聞き取り早期の対応を行っている。

さらに、欠席日数が規定を超えた場合、学生と担当教員等の面談・指導の内容に関する書面を送付している。それでも改善が見られない時は、本人・保護者と担当教員、学校責任者が面談して問題解決を図っている。

市内の農業高校と連携し、高校生の放課後の時間帯を活用し、「サービス接遇講座」「レストランサービス技能講座」を開設しており、毎年、高校生が受講している。

高校での履修科目との関連性から、毎年、定期的な依頼があるため、今後も継続する。

(6). 教育環境

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	1	4	0	0
②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	1	3	1	0
③防災に対する体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	1	3	1	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価されたが、「②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか」「③防災に対する体制は整備されているか」の項目で「やや不適切」との評価意見があった。

「②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか」について、国際ビジネス科において海外研修の実施により学科の魅力を増進させる必要があるとの意見があった。さらにホテル・ブライダル科の現在の実習設備に加え、ドレスフィッティングやパウダールームなどがあると、より実務に即した実践的な教育効果が期待できるのではとの意見も挙げられた。

「③防災に対する体制は整備されているか」について在校生全員の避難訓練を実施すべきとの意見があった。

②今後の改善方策

「②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか」について、国際ビジネス科の海外研修実施により学科の魅力を増進させる必要があるとの意見に関し、平成30年度より国際ビジネス科の希望者を留学斡旋企業に依頼し、短期留学させることを浜松校と合同で検討している。まずはこれにより学科の魅力増進を図りたい。ホテル・ブライダル科の実習施設の整備については、現在のドレス保管室兼メイク・ネイル実習室にフィッティングスペースやメイクボックスの設置を検討する。

「③防災に対する体制は整備されているか」について在校生全員の避難訓練を実施すべきとの意見に関しては、平成30年9月下旬に地震発生を想定したクラス単位の避難訓練を実施する。

③特記事項

施設・設備の整備については、各ホームルーム教室のほかに、国際ビジネス科で使用する遠隔地双方向授業教室やパソコン室、ホテル・ブライダル科で使用するバンケットルームやパントリールームを設置している。また、全館で無線LANを使用できる環境が整っており、タブレット端末を活用したプレゼンテーションやペーパーレスの授業に取り組んでいる。

ホテル・ブライダル科では従来よりインターンシップを実施しており、毎年実習先企業の責任者とその年のインターンシップ開始前に複数回にわたって打ち合わせを行っている。また、当校教員が実習先企業を訪問し責任者や教育担当者と面談し、あわせて学生全員に対して個人面接を実施し、実習上の課題等の聞き取りを行っている。この聞き取り調査をもとに学生への助言を行うとともに、課題検討材料として、次年度実施に向けた改善と工夫を行っている。

防災に対する体制整備については、年2回防災設備の点検を専門業者に委託し、その結果を消防署等へ届け出ている。また、職員に対する防災訓練を年1回実施しており、消防設備の使用方法を確認している。さらに防災訓練の一環として静岡県に行く被災状況報告も滞りなく実施している。学生に対しては入学直後に避難場所・避難経路の確認を行ない、卒業年次にも同様に避難場所・避難経路の確認を行っている。また、震災等に備えて毛布、食糧、飲料水を備蓄しており、今後もこの充実を図る。

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学生募集活動は、適正に行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	0	0	0
②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0
③学納金は妥当なものとなっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

②今後の改善方策

学生募集活動は広報営業室を中心に学校案内書の作成・学校説明会での告知等、常に適正な説明・対応を心掛けており、現に適正に行われているものと思われる。提供する情報を常に最新のものとし、入学希望者及び保護者に対し正しい情報提供に努める。また、学納金についても妥当な額である。

ただし、少子化及び大学全入時代、高校卒業者の就職環境好転により学生募集は厳しい状況にあるとの認識を持ち、平成30年度はより積極的な募集活動を行う。

③特記事項

毎年3月末までに募集要項を含む総合パンフレットを完成させ、新年度の募集活動を開始している。募集要項には設置学科コース、入学方法、出願手続き、学費、学費支援制度等、出願に必要な項目を漏れなく、詳細に記載している。募集活動も広報営業室スタッフを中心に教職員が一体となって、学校説明会・体験入学会を実施している。高校訪問を通じた広報活動を1年間コンスタントに行い、高校生や進路指導課の先生方への説明を詳細に実施する。

総合パンフレットにおいて、在学中に取得した国家資格・検定資格をその試験別に分類し、合格した全学生の氏名を記載、公表している。また、就職実績については、学生個人別に就職先企業名を明示し、今後入学を予定している学生の就職先理解に役立てている。

募集要項には入学金・研修教材費・授業料・維持費別の金額を明示し、さらに納入する時期と納入方法を明確にしている。納入方法については、一括・分納等の6パターンから各家庭の経済事情により選択できる仕組みになっており、家計の負担を軽減できるよう、工夫している。

(8). 財務

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0
③財務について会計監査が適切に行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0
④財務情報公開の体制整備はできているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

②今後の改善方策

財務内容について、現状これといった問題はなく、会計監査についても適正に行われている。

③特記事項

入学後の寄付金や学債の依頼をすることもなく、学園は借入金の無い健全な財務状態である。しかし、継続的に財務基盤の安定性を保つためには、更なる学生数の確保と業務の効率化による人件費・経費の縮小に努める必要がある。

予算収支については新年度の事業計画を反映した資金収支予算・消費収支予算が組まれており、理事会・評議員会等での必要な手続きを経て新年度の事業計画や予算が承認されている。また、会計監査や税務監査が適正に行われている。

財務情報として財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書、監査報告書と学校の概要、教育目標、各学科の教育、キャリア教育、実践的職業教育などの学校情報を学校ホームページ上に公開しており、いつでも閲覧できる状況になっている。

(9). 法令等の遵守

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	0	0	0
②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	3	0	0
③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0
④自己評価結果を公開しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	3	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

②今後の改善方策

学園は関係諸法令の遵守に努めており、適正な学校運営がなされている。また、自己点検・自己評価の実施も行っており、その結果を学校ホームページにて公表している。

③特記事項

毎年3月末時点で在籍の教職員を対象に自己点検評価を実施している。この結果を基に学校長が自己評価の総括表を作成した上で、学校関係者評価委員会を開催し、学校関係者評価実施報告書及び自己評価書を学校ホームページ上に公表している。

評価項目において「やや不適切」「不適切」の評価意見があった場合には、直ちに問題点を明確にした上で、その改善を図る。

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	1	4	0	0
②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0
③地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	3	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

②今後の改善方策

平成29年度から、地域の福祉協議会が発行するボランティア情報の掲載された広報誌を毎月教室に置き、身近にあるボランティア活動を紹介することにより、学生個人が自発的に取り組むよう啓蒙した。平成30年度も引き続き広報誌による情報提供と教員からの告知により自発的取り組みを啓蒙する。

③特記事項

学校の教育資源や教育施設を利用した社会貢献の一環として、様々な公共職業訓練講座を受託し実施しており、離職者や高齢者の再就職のための知識や技術の習得に貢献している。

また、企業や一般を対象とした公開講座として「サービス介助士講習会」の実施、高校生を対象とした「レストランサービス技術講習会」や「サービス接客対策講座」も開設している。

年一回、11月初旬に静岡市で行われる「大道芸ワールドカップ in 静岡」に、平成17年度から平成29年度までの13年間に累計392人の学生が参加し、高齢者や障害者のエスコートスタッフとして大会運営のノーマライゼーションに貢献している。